

認知症の人からの私たちへのメッセージ

～ 山口県オレンジパワー活用セミナーからの記録 ～



受講者の質問に対して、認知症の人からお答えいただいたコメントを、
そのまま、綴っています。

令和2年11月

山口県健康福祉部長寿社会課

【質問】

- 認知症という診断を受ける前後で、周囲に配慮してほしい点などあれば教えてください
- 診断の前後に、どのような関わりが欲しい(欲しかった)でしょうか
- 認知症との診断を受けた直後に希望する支援とは？
- 相談窓口や関わる関係職に望むこと(こうしてほしい、こうしてもらえて良かった、これはやめてほしいなど)

しっかり支えてくれる相談者（私にとっては、
認知症地域支援推進員）の存在がありがたかった

病気であっても、人はそれぞれプライドを持っているので、「理解できないだろう」と決めつけないで・・・

自分からはいろいろ言いにくい
内に秘めたパワーを引き出してほしい

家族にだけでなく、自分にも関わることは
自分にも直接言ってほしい

認知症の説明をきちんとしてほしかった
知らないのが、一番怖い

認知症も自分もよくわからないので、
何に困っているかわからない

人と人とのつながりが安心する
印刷物だけのPRより、人からの紹介の方が
行ってみようという気持ちになる

【質問】

○診断されたときの気持ち

○認知症について

認知症は、もやっとしている
言葉でも現実でもつかみにくい

「認知症」という病名が一人歩きすることがいや
認知症だからと過保護にしてほしくない
病気ありきで、みてほしくない

認知症と診断された時のこと、よく覚えていない

皆さんが「認知症のことをわかっている」といった時点で
わかっていない
認知症の自分でも自分のことがわからないのだから

認知症と診断されても、認知症のド素人

なぜ、今ここにいるのか時々わからなくなる。自分
の中では何の変化もないのに「認知症」との診断が
不思議になる

【質問】

- 本人の居場所について、受け皿をどのようにしたらよいか
- どんな認知症カフェに参加したいか
- どういった集まりがあれば参加したいか
- どういう方法が、仲間とつながりやすいか(ex:集い、SNS、オンラインなど)

大切なのは、若年性認知症の本人が充実して、仕事や社会生活を送っていること

近くで、定期的に（出来れば2週間に1回）集まりをしてほしい

歩いていけるところにあれば、安心していける

近くにあれば、気軽にいける

身近な場所に、集いも認知症カフェもあって、状況によって選べるといいな～

同病者の集まりはいい
わからないことが多いので、安心する

【質問】

- 認知症になったときの経験や行政・地域に対する要望を教えてください
- 社会整備として、何をしてほしいですか
- 何に困っているのか、どんな支援(サービス)が必要なのか聞いてみたい
- どのようなことに不安を抱えているのか(本人・家族とも)

閉鎖的な地域にこそ、行政の力を必要としているのではないかと思う(個人では限界)

必要な情報がどこにあるのかわからない

異動などでこれまで支えてくれた人がいなくなることに

車なしになって、生活範囲がとて狭くなってしまった

歩いて行けるところには一人で行ける
公共交通機関も間違えてから乗れなくなった

気軽に使える移動のサービスがあったらいいのに・・・

不安は山ほどある。
でも、不安は全ての病気の人にあると思う

認知症は数値で計れないから、不安・・・

【質問】

- 若年性認知症→相談あまりない。情報がない
- 若年性認知症の方の情報が入らない

「あまりない」のではなく、面倒と思うけれども、この時点でもっとよく傾聴すると良いと思う。
皆さんの支えで、いろんなことを「言葉」にしていくことが大事、大切・・・

本当に、誰にも情報が入らない
のだろうか・・・

【質問】

- 生活の中で、大切にしていること
- 生活に求めるもの、必要なもの

アルツハイマー型認知症の人にとって、支えになるのは、「人」だと思う

家族がいるから、今の自分でいられる

就労継続支援B型事業所があってよかった！
(通所者は皆、同じことを言われます)

希望がほしい

家にいることは、よくない